

大正四年四月、同級生より一歳下で入学しました。当時の一年生は、右も左も分からず、箸を持つ方が右、茶碗を持つ方が左と教える程度でした。私は入学の一年前まで左箸でした。来年から学校へ行くんだから、右手で箸を持つよう練習させられました。呑みこみの悪い子供ばかりで先生によく叱られたものです。そんな子供を受け持った先生のご苦労は大変だったと思います。今の子供と違って、親が子供に勉強せよなどということはまずなかったと思います。予習も復習もせず、学校で授業を受けるだけで、家に帰ると子守り、家事の手伝いと遊ぶ暇もないという有様でした。

一年生の時、朝会に出ないで教室にさぼっているのを先生に見つかって罰則に放課後立たされました。他の二人は立っていました。私は先生の許しが無いのに帰りました。すると受持ちの先生が心配して家を訪ねてきて私が帰っているのを見て安心したようでした。明日から出

てくるようにと母に言いつて帰りました。この先生は、千歳村石田出身の足立六平先生でした。ほんとうにやさしい先生でした。

入学した時の同級生は四十一人で、尋常科の卒業は三十九人。内高等科へ進んだ者三十一人でした。その当時高等科は一・二年が複式でした。二年の時から単式になりました。担任の先生は朝地町近地出身の阿南喜誉美先生でした。師範学校出の方で新しい教育を施された先生でした。級長の選出を投票で行ったり、国語のローマ字綴りや俳句など教えて下さいました。その時、私の作った俳句の「寒そうに雑巾握る掃除番」が天に選ばれたのを記憶しています。同級生の句で「春日和雀さえざる猫が取る」などの傑作のあったことなど思い出があります。校庭の周囲に梨や桃の木が植えてありまして、実がなると、取ることを禁じられているのに、先生に見つけられないようにそれを取ったものでした。

高等科になると、農業の学科と実習があり、野菜や水稲の実習地がありました。

また、学校経営のために、各農家から粃をいただいで玄米にしていますが、みな生徒の仕事でした。

秋になりますと、井田郷四カ町村の小学校が集まって運動会がありました。当時の応援歌に、「北には三岳みみねの嶺高く、麓ふもとに柴北しばきたの流れあり古武士の意気を感じつつ ふるえ長谷はなやの健男児」これを声を枯らして応援したものでした。数々の思い出を残して、大正十二年高等科を卒業しました。関東大震災の年でしたので忘れることができせん。

なお、当時の校舎は二階建四教室で、これは井田高等小学校の校舎を移転して建てたものと聞いています。その校舎も古くなり、昭和三年に新しく改築されることになるのでありません。